

## カレッジ防衛モニター部隊研修を通して

## 神奈川地方協力本部カレッジ防衛モニター 植田 尚



横須賀潜水艦教育訓練分遣隊で記念撮影（筆者：右から4番目）



横須賀潜水艦教育訓練分遣隊 深海救難艇操縦体験（筆者：左）

平成27年2月18日（水）、海自横須賀基地において、カレッジ防衛モニターの一環として部隊研修を受けることが出来ました。今回私達がお世話になったのは、横須賀潜水艦教育訓練分遣隊、海上自衛隊第2術科学校、海上自衛隊潜水医学実験隊の三箇所です。

最初にお邪魔したのは、横須賀潜水艦教育訓練分遣隊です。この部隊は、深海救難艇（DSRV）と言った特殊な潜水艦の訓練を行う部隊です。DSRVは、文字通り深海での救出作業を行う救難艇で、主な救助対象は深い海の底で日本を守っている潜水艦の乗員です。海中を進む潜水艦は普通の船に比べ、非常時に乗員が外部に避難するというのが困難です。深海救難艇は、そのような特殊な状況下でも乗員を救助でき、現在日本の海上自衛隊では2隻が運用されています。

部隊の建物を案内していただいたときに目を引いたのは、バスケットコートほどの広さの部屋に設置されたDSRV大型シミュレーターです。この日は部隊の成り立ちや任務、部隊概要を教えて頂いたあと、シミュレーターを操作させていただきました。本物とほぼ同じに作られているというシミュレーターに入ると、中は狭い空間に様々なモニターや装置が所狭しと並べられており、SF映画に出てくる宇宙船のような雰囲気でした。私達モニター4人が順番に操作させてもらいましたが、最も簡単なのはシミュレーターでも微調整が非常に難しく、付き添ってくださった自衛官の方によると普段は更に様々な悪条件やハプニングが加わるとのことです。本番どんな事があったとしても大丈夫のように訓練されているのだと感じました。

昼食を部隊食堂で頂いたあとは、第2術科学校で第2術科学校の前に横須賀にあった旧日本海軍の歴史や海上自衛隊創設の歴史などを解説していただきました。有名な作家である芥川龍之介が英語の教官として教えていた際の資料や戦後の歴史などが解りやすく展示されており、とても興味深かったです。

最後に見学した潜水医学実験隊は、深海潜水の訓練や高圧下での生活実験、潜水艦からの直接脱出する訓練施設などを備えているほか、潜水病などの治療の研究もしており、それらのお話を聞かせていただき、隊の所有する施設を見せていただきました。一辺10mの正方形のプールや、高圧生活施設など、特殊条件を作り出す実験施設が数多くあり、非常に興味深かったです。

今回お邪魔した三箇所は、いずれも普段決して見る事の出来ない貴重な部隊や施設であり、自衛隊の高度な技術や設備の一端を見学し非常に有意義な一日となりました。

## 海上自衛隊東京音楽隊のコンサートでPR



自衛隊広報ブース



神奈川地方協力本部小田原地域事務所（所長 林1陸尉）は、2月20日（金）、小田原ロータリークラブが主催し海上自衛隊東京音楽隊が出演した、創立60周年記念コンサート会場（小田原市民会館）内に広報ブースを出展した。

このコンサートは、「ポリオ撲滅運動」の一環としても行われ、小田原市内の中高生約300名を含む約1,100人が東京音楽隊の演奏に酔いしれた。小田原地域事務所は、このコンサート会場内に、災害派遣パネル等を展示して自衛隊の活動状況を広報し、訪れた方々から「災害が発生すると自衛隊が頼りですね」という声が聞かれた。

小田原地域事務所は、「今後も、あらゆる機会を通じ自衛隊を広報し、自衛官募集につなげていきたい」としている。

中・高の吹奏楽部を魅了  
海上横須賀音楽隊定期演奏会

神奈川地方協力本部 横浜中央募集案内所（所長 竹崎1陸尉）の担当地域内の中学校及び高校の吹奏楽部（8校52名）が2月27日（金）、横浜みなとみらいホールで行われた海上自衛隊横須賀音楽隊定期演奏会を鑑賞した。

演奏会が始まると生徒達は、自分と同じパートに注目し、その技術の高さに驚いた様子で、「私たちも、あのようになりたい」と興奮ぎみに話していた。

また、「今後も是非、演奏会などに案内してほしい」という学校側からの要望も聞かれた。

横浜中央募集案内所は、「今後も、演奏会等各种イベントに中高生を案内し、自衛隊の魅力を伝えていきたい」としている。